

1 学校として目指す授業

互いの考えや良さに気付きながら、自らの考えを表現し情報を活用しながら児童が積極的に発信し合える授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語科では、最も高水準なのは指導内容の「話すこと・聞くこと（73.7%）」で、全国平均を7.9pt上回る。「情報の扱い方に関する事項」の正答率は43.4%で、全国（52.3%）や都（56.7%）を大幅に下回る。目的に応じた情報の整理や、関係性の理解に課題が見られる。 算数科では、全体正答率は60%で全国平均（56.4%）を上回るが「思考・判断・表現（40.8%）」や「記述式（42.1%）」は全国・都を下回る。知識・技能に比べ解き方の根拠を説明・記述する力に課題がある。	生活習慣については、朝食摂取率（89.2%）や規則正しい起床・就寝は全国平均以上で、良好な生活リズムが定着している。 平日の動画・SNS利用が2時間以上の児童は約46%で、メディア利用のコントロールが課題である。 学習習慣では、学習の振り返りを行う児童は45.9%（全国31.4%）と多く、主体的な学習姿勢が見られる。平日と休日の学習量に大きな差があり、休日に自律して学ぶ習慣の定着が課題である。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している」の項目で、4割以上の児童が否定的な回答をしている。「学びに向かう力、人間性等」に関する資質能力の中で、他者と関りながら互いの考えの良さや違いに気づきながら学びを深め、自らの考えを整理し発信する力の育成が課題である。
・昨年に引き続き漢字の学習に課題が見られる。「漢字の部首の意味も考えながら覚えている」「似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている」の項目では漢字・熟語に4割近い児童が否定的な回答をしている。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京ベーシック診断シート（算数）①「数と計算」領域においては、少しずつ定着してきている。しかし、個人差があるため、引き続き習熟を図る必要がある。②「変化と関係」「データの活用」領域の正答率が低い。「2つの数量の関係」や「データの特徴」などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、それを表現することに課題がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・関係性の理解や、目的に応じた情報の整理など情報を読み取ったり活用したりする経験が浅い。
- ・自分の考えを整理し根拠を明らかにして文章として表現する（国語の基礎的な力も含め）ことに課題がある。
- ・他者との関わりの中で、他者との違いや良さに気が付きながら自らの考えを積極的に発信する力が不十分である。
- ・生活の中で、目的に応じた家庭学習の定着しておらず、習熟に課題がある。また、メディアをコントロールする力が弱い。

4 学校全体の授業改善の視点

- ・情報の収集・整理・活用する機会を多く設定し、情報処理・情報活用能力の向上を図る。
- ・自らの考えを文章化したり、根拠を基に説明するための語彙力・文章力・言語による表現力を伸ばす。
- ・話し合い活動や体験活動の中で、自らの考えを発表する機会を多く設定し、価値づけを繰り返すことで児童の発信力・発言力を高める。
- ・学習に見通しをもたせ、学習の振り返りを丁寧に行うことで主体的に学習しようとする意欲を引き出し、自ら学びを改善しようとする自発性をもたせる。授業の中で単元計画を見直し、習熟を図る機会を設定する。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・言葉の意味を丁寧に扱いながら、語彙を増やしていく。文章の構成などの基本事項を理解させ、大切な言葉を読み取れるような工夫をする。 ・自分の考えと理由を書き、発表する機会を作る。				・問題文を読み取るときに、大切な言葉に着目させる。 ・具体物を用いて、自分の考えを説明できるようにする。 ・計算の仕方など自分の考えを言葉でまとめられるようにする。			・身近な人々や自然に関心をもち、触れ合う機会を設定する。そこで学んだことを生かし、発表できる機会を設定する。 ・近隣の林家商店街など、地域の教材を活用する。 ・図書資料やICT機器を活用し、自分で調べ、まとめる学習を行う。			・友達の歌や演奏を聴いたり、ペアやグループで感じたことを伝え合う活動を通して、互いの表現の良さに気づき、自分の表現に生かせるようにする。 ・学習のめめてや流れを分かりやすく示して見通しをもたせ、活動を振り返りカードに記入し、文章化しながら、できるようになったことや工夫したことに気づき、次の活動につなげられるようにする。		・導入で映像や画像を見ながら友達との意見交換し、児童それぞれがイメージを広げていくようにする。はじめは一編に作品作りをし、その後互いに見合う場を設定して友達の上さを取り入れて自分の作品をよりよくしようとする態度を育てる。作品や活動についての意見交換を行い振り返りシートに書くことで達成感をもったり次の学習に生かしたりするようにする。			・基本的な動きを体験し、身に付けることができるように多様な運動遊びを取り入れる。 ・きまりを守り、仲良く運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 ・授業の振り返りを行いワークシートに書かせる。			・役割演技や具体物を用いて、登場人物の気持ちを考えられるようにする。 ・自分や友達の考えを聞いたり、伝えたりしながら様々な考えに気付くことができるようにする。			
中学年	・語彙を増やしなが言葉の意味や文章の構成などの基本事項を理解したうえで、物語文や説明文を読み深めさせる。 ・書かれている文章を根拠に、自分の考えや意見を構築させ、発表等では、その根拠を示させる。		・社会的現象を、今の自分の生活と直結つなげたり比べたりさせながら、自分事として捉えられるようにし、自分の考えを文章で書き表す活動を取り入れ、思考を整理させる。 ・資料の数値や言葉から読み取れる事実をもとに話し合いをさせたり、事象の理解を深めさせたりする。		・問題文を読み取る時間を意図的に取り、「問い」をもって問題解決ができるようにする。 ・問題場面と図や表、式を関連付けて考え、説明できるようにする。 ・数算のしかたなど暗算があるものは、簡易書きで自分の考えをまとめるようにする。 ・ふりかえりで自分の学びをまとめ、次時の学びに生かせるようにする。		・問題をつかむ際に身近な事象や体験的な活動を取り入れ、疑問や知りたいことを発表する機会を多くもたせるようにする。 ・実験結果を基に考察やまとめを文章で記述できるように、ワークシートを活用し、自分で記述できるような指導を行う。			・録音した演奏や友達の表現を聴き比べ、良さや違いについて考えたことを伝え合う活動を通して、自分の表現を工夫できるようにする。 ・どのように表現にしたいかを考えて活動に取り組み、振り返りカードに記入し文章化しながら、自分の課題や工夫したところを見付け、次の表現に生かせるようにする。		・題材と身のまわりの関連についての意見交換をし多様なイメージをもたせる。・友達との話し合いや作品を見合う場面を設定し、意見交換をして自分の感想やイメージをアイデアスケッチや振り返りカードに文章でまとめ発表する。アイデアスケッチや振り返りカードを活用して自己の作品について相手の工夫したところを活用し、さらに自分の造形活動を自ら深めようとする意欲を育てる。			・技能を高めるため、自分に合った場を選んで個々の課題に取り組んだり、互いに技を見合う工夫をすることができるよう場の工夫をする。 ・学習カードを活用し、自分の目標や課題に応じて取り組みませ、振り返りを通して自分の課題に気付かせるようにする。			・ゲームや体験活動を通してコミュニケーションをとることの楽しさを十分に味わわせ、自分からすすんで学習できる意地を養う。 ・簡単なゲームや歌を繰り返し行うことを通して、新出単語や慣習表現を楽しく覚えれるようにする ・振り返りカードを活用し、分かったことやできるようになったことを文章化する。		・自分の経験や道徳的価値に向き合うために、書く時間を十分に確保する。 ・発問に対しての考えや、自分の経験の振り返りについて、ペアやグループなどでの話し合いの時間を設定し、多様な考えや価値観に触れさせる。		
高学年	・読み比べから共通点・相違点を思考ツールで整理し、根拠を明確にした意見文を書かせる。 ・単元末に互いの文章を読み合い、ルーブリックに基づきアドバイスし合うことで、自身の記述を再推敲させる。		・統計や資料から課題を読み取り、思考ツールで整理して根拠を明確にした発表を行わせる。 ・単元の問いに対し学習前後の考えの変化を振り返らせ、毎時間の終わりに確認問題を行う。		・問題把握するために、何を問われているのかを児童が説明する機会を設け、情報を読み取る活動経験を増やす。 ・問題解決の過程で数直線や図、式等を活用し、一つの見方だけでなく他の見方でも考え、文章で表現する活動を継続的に設ける。 ・毎時間の振り返りで、その時間での自分の学びや他者の考えのよさを振り返り、事前に示した観点に沿って書くことができるようにする。		・身近な現象を取り上げ、具体的場面を想起させることで、疑問や課題意識をもてるようにする。 ・実験結果を表やグラフにまとめさせ、そこから考えられることを考察として文章で表現させる。 ・仮説や予想の場面で話し合い活動を行い、児童の発信力・発言力を高める。 ・振り返りを文章で書かせる。			・録音した演奏や友達の表現から得た気付きや考えを整理し、表現の意図や工夫について伝え合う活動を通して、自分の表現をよりよく深められるようにする。 ・どのような表現を目指すかを明確にして活動に取り組み、振り返りカードに記入し文章化しながら、自分の課題を捉え、身に付けた知識や技能を生かしながら表現を改善できるようにする。		・児童作品、美術作品の鑑賞や、身のまわりの社会や自然科との関係について考え、友達と意見交換をし、アイデアスケッチや振り返りカードに書いてまとめることを通して題材や自分の作品について新たな気づきや発想の広がりを実感できる学習活動を展開する。 ・自分の作品を展示、展示する機会を設けて、自分の作品についての感想や紹介、友達との意見交換などをコメントや文章に書きまとめることでなく自己の学習活動を発信することを通して意欲を育てる。		グループ学習を積極的に取り入れる。友達同士で話し合い、練習方法を工夫したり、アドバイスをし合う時間を設けたりすることで、主体的に学習を進められるようにする。また、活動の振り返りを自分の言葉で書く機会を設けることで、次の活動へつなげられるようにする。		・目標に向かって協働的に取り組めるようグループ活動を通して、作戦を話し合ったり、アドバイスを受け合う学習機会を設定する。 ・自分の能力に達した学習内容の選択児童ができるような学習活動を設定する。 ・ワークシートを活用し、本時のねらいや、自分の目標を踏まえたうえで学習に取り組ませ、振り返りを行い課題を理解させる。		外国語を使って自分の考えや気持ちを具体的に伝えることができるようになるために、相手に質問したり、答えたりする活動を多く設定する。振り返りを文章で書かせる。		・児童が自分の考えをもち、友達との対話を通して多面的・多角的に考えを深められるよう、「書く」活動を取り入れる。また、自分の考えの変化や深まりを自覚できるようにする。		